

パインアップル「サマーゴールド」のハウス栽培における 高品質出荷期間の検討

竹内誠人・仲宗根副則・宜保永堅・仲里孝直
(県農研センター名護支所)

はじめに

沖縄県では観光施設などで1年を通した生食用パインアップルの需要がある。パインアップルは花芽誘導処理によって周年供給は可能であるが、露地栽培では高品質果実が収穫できる期間は短く、主要品種の「N67-10」では自然夏実のわずか1ヶ月間、新品種「サマーゴールド」を用いても5月～10月の6ヶ月間である。そこでさらなる収穫期間の拡大を目的とし、「サマーゴールド」をビニールハウス栽培することにより高品質果実出荷期間の前進化を検討する。

材料および方法

供試品種は「サマーゴールド」と「ボゴール」で、両品種ともに平均苗重約210gの増殖苗を2002年9月27日に植え付けした。その後エスレル1000倍＋尿素3%混合液を用い、時期別に花芽誘導処理を行った。調査項目は収穫時期、果実特性、果実品質、病気の発生等である。品質分析は果実の1/4切片を搾汁し、日園連酸糖度分析装置NH-1000を用いた。

結果および考察

1. 今回の試験で行った栽培方法を表1に示す。夏植えを行い花芽誘導処理とビニール被覆を組み合わせることで、同時期に処理した露地栽培と比較して30日も収穫が早まり(データ略)、3年間で2回の収穫が可能となる。2回目の果実を収穫するには吸芽の生育期間を確保する必要があるため、1回目の花芽誘導処理時期にくらべ2回目は1ヶ月程度遅くなる(表1)。
2. 「サマーゴールド」の1回目収穫時の品質は、3月下旬に収穫される果実から酸が低くなり、糖酸比が高まり始め、食味が良くなる。2回目の収穫は4月中旬から始まり、いずれの収穫果も食味が良く高品質である(図2)。
3. 対照品種である「ボゴール」と比較しても、「サマーゴールド」は酸切れが良く、約10日食味が良くなる時期が早い(図1, 3)。2回目収穫果においても5月上旬までは「サマーゴールド」の糖酸比が高く、食味値も高く高品質である(図2, 4)。
4. 「サマーゴールド」において高品質な果実が収穫でき、最も収穫期が前進化する花芽誘導時期は1回目9月上旬処理、2回目が10月上旬処理で、「ボゴール」では1回目10月上旬処理、2回目10月中旬処理の作型である。これら作型の10a収量を比較すると、1果重が重い「サマーゴールド」の方が2,000kg以上の増収となる(表2)。

以上の結果「サマーゴールド」はハウス栽培することで、3月下旬から高品質果実が収穫可能であった。既存品種「ボゴール」と比較しても収穫期間が前進化し、収量が増加した。しかし、「サマーゴールド」は褐斑病や日焼け果が発生しやすいため栽培に留意する。

表1. 「サマーゴールド」および「ボゴール」の栽培歴(花芽誘導処理時期および収穫時期)

作業 品種	植付	1回目花芽 誘導処理	ビニー ル被覆	1回目収穫	2回目花芽 誘導処理	ビニー ル被覆	2回目収穫	古株 更新
サマー ゴールド	2002年 9/7	2003年 8/中~10/中	2003年 11/21	2004年 2/中~5/下	2004年 9/中~11/中	2004年 11/24	2005年 4/中~7/上	2005年 7/中
ボゴール		2003年 9/中~11/中		2004年 3/中~6/上	2004年 10/上~11/中		2005年 4/中~6/中	

注) 花芽誘導処理時期以外の栽培は両品種とも栽培要領に従い同様に行った。

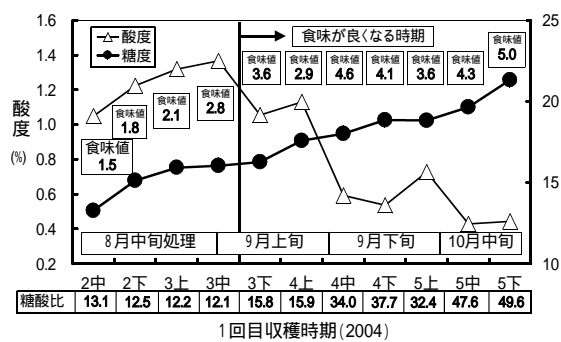


図1. ハウス栽培「サマーゴールド」における果実品質

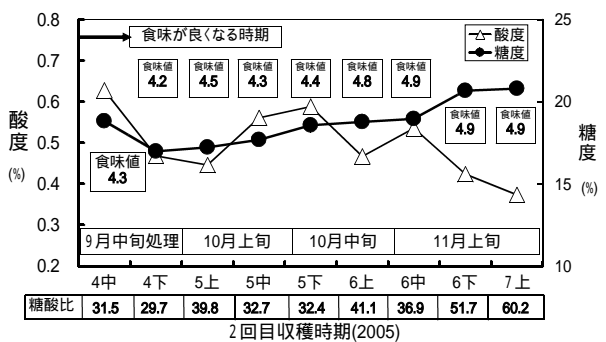


図2. ハウス栽培「サマーゴールド」の果実品質

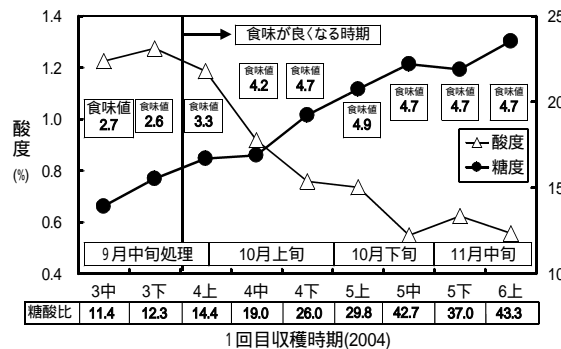


図3. ハウス栽培「ボゴール」の果実品質

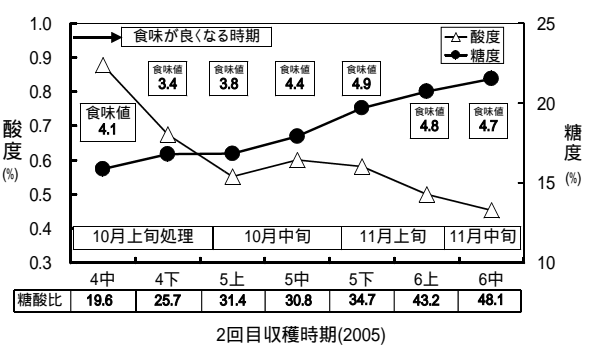


図4. ハウス栽培「ボゴール」の果実品質

注) 図中の食味値は0(食不可)~3(食可)~5(おいしい)の6段階評価の平均値。

表2. ハウス栽培における「サマーゴールド」および「ボゴール」の10a収量.

品 種	花芽誘導 処理時期	1 回目収穫果			本利用率 (%)	2 回目収穫果			10a収量 (kg)
		出蓄率 (%)	果実重 (g)	商品化率 (%)		出蓄率 (%)	果実重 (g)	商品化率 (%)	
サマー ゴールド	9上-10上	100	1,515	86.6	88.7	1,075	63.2	8,039	
ボゴール	10上-10中	100	1,015	91.4	90.4	842	64.6	5,921	

注) 商品化率は収穫個数から600g以下の果実と病果および奇形果を取り除いた数値

